岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名　陰平川通常砂防事業に伴う業務委託

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　砂防

ボーリング名	No.4	調査位置	広島県福山市駅町後地	北　緯	34° 23′ 41.6168″
発　注　機　関	広島県東部建設事務所	調査期間	令和2年 6月 6日～ 令和2年 6月 8日	東　経	133° 22′ 26.1820″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 93.46m	角度	180° 上 90 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	11.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：YBM-05型 / エンジン：ヤンマーディゼルNFD-9 / ポンプ：東邦地下工機GP-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名(模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 (cm) / RQD (%)	記事	孔内水位/測定月日	削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
1	93.36	0.10		粘土混り砂礫	暗茶								GL0.0～7.95m　崖錐堆積物 GL-0.0～5.5m　砂と礫がほぼ1：1の割合となる。砂は細粒砂～粗粒砂で、礫はϕ2mm～50mmの角礫である。部分的に粘土を多く含む。										
2																							
3				粘土混り砂礫	灰茶褐																		
4																0	66/ケーシング	打込み/	0	0	0	W10	0
5	87.96	5.50												6/9 5.72 6.24									
6				粘土質礫質砂	暗茶褐～灰茶								GL-5.5～7.95m　細粒砂～粗粒砂が主体で、粘土及びϕ2mm～50mmの礫を多く含む。部分的に粘土分が多い。GL-5.5m付近より含水が多い。		6/6								
7																							
8	85.51	7.95		粘板岩	灰白青～暗灰青	w3	h1	C	IV	c	CL	Q[0](100)	GL-7.95～11.0m　基盤岩。 砂岩質優勢の粘板岩で、部分的に泥岩質である。角礫状～片状を呈す。多方向の亀裂が多く発達し、亀裂沿いに風化している。また、一部石英脈のような岩脈がみられる。岩片はハンマーでたたくと亀裂沿いに割れる程度で、一部比較的軟質な部分や、ハンマーでたたいても割れない			134	HW/DI		100	150	1	W3 10	10
9												Q[0](100)											
10												Q[0](100)				113							
11	82.46	11.00										Q[0](100)			6/8	128							
12																							
13																							
14																							
15																							
16																							

標準貫入試験

深度－N値図

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
5	1.15	5		
	1.45	300		
6	2.15	6		
	2.45	300		
11	3.15	11		
	3.45	300		
12	4.15	12		
	4.45	300		
7	5.15	7		
	5.45	300		
13	6.15	13		
	6.45	300		
26	7.15	26		
	7.45	300		
50以上	8.00	50	80	
	8.08	80		
50以上	9.00	貫入不能		
50以上	10.00	貫入不能		

原位置試験

室内試験